

会 議 録 要 旨

会議名		令和6年度 第5回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2024年（令和6年）11月25日（月）午前9時55分～午後0時04分	
開催場所		本庁舎5－1、5－2会議室	傍聴者数
			0人
出席者	会 長	杉 渕 武	
	委 員	稲田 圭祐 井上 美鈴 後藤 厚 小林 敦子 下川 依里奈 関口 洋史 仲 倫子 渡井 大輔	
	事務局	近藤下水道部長 [下水道総務課] 張ヶ谷参事 草柳主幹 山口主幹 小松補佐 鈴木補佐 砂川補佐 外山専任補佐 吉原専任上級主査 伊勢崎主任 中澤 [下水道管路課] 鈴木課長 毛利補佐 矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事 竹内辻堂浄化センター長 佐藤大清水浄化センター長 田中補佐 鷺塚補佐 伊澤補佐 日向補佐	
議題及び公開・非公開の別		1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の達成状況（令和6年度中間実績） その他 (公開)	
非公開の理由			
審議等の概要		《議題》 1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の達成状況（令和6年度中間実績） （資料1に基づき説明） 【質疑】 （1）事業6と事業8の目標であるポイントの考え方が分からないので説明いただきたい。 《回答》 本市には2つの浄化センターと15のポンプ場があり、これを構造上分けて75の下水道施設がございますが、その1施設に対して耐水化、耐震化が完了すると1ポイントを計上する仕組みになっています。施設ごとに基本設計、実施設計、工事の3段階あり、基本設計で0.2ポイント、実施設計で0.3ポイント、工事で0.5ポイントを計上し、全て終わると1ポイントで完了としています。全75施設あるため、75ポイントを満点として管理しています。中期経営計画のP.24とP.27の※印の注意書きに説明がございます。 （2）ポイントについて、事業6は目標に対して令和5年度が50%、令和6年度が75%、事業8は令和5年度が53%、令和6年度が67%となっており、進捗に課題があると見受けられますが、原因があれば教えていただきたい。 《回答》 今年度の事業については現在執行途中であるため、今後決算に向けて、予算に基づくポイント数となるよう努めてまいります。 また、事業費の面や、建て替えが必要となる施設は用地確保の問題もあり、同時に全てを行うことはできないことから、優先順位を定め重要な施設から改築していく予定です。 （3）事業6の「浄化センターポンプ場の耐水化」について、令和6年度の短期目標が0.8ポイントとなっており、他の年度よりも小さいのは何か理由があるのでしょうか。 《回答》 令和6年度は4施設の基本設計を行う計画としており、基本設計は0.2ポイントとなるため4施設で合計0.8ポイントとなっています。令和6年度は各施設における事業スケジュールのはざまの年として、進捗があがっていないものです。	

審議等の概要	(4) 令和9年度から、ウォーターPPP（水道・下水道事業における官民連携の新たな手法）の取組が補助金交付の要件となりますが、藤沢市の取り組み状況を教えてください。 《回答》 今後どのようにウォーターPPPを適用できるか、検討しているところです。検討にあたっては、マーケットサウンディングなどにより民間事業者の考えを取り入れていきたいと考えています。 (5) 新たに始めた包括的民間委託の効果や課題について今の段階で分っているものがあれば教えてください。 《回答》 効果としては、これまで単年度で発注していたものを一括して複数年で発注することによって業務が軽減されています。また、管路調査がこれまでよりも進捗しています。 課題としては、調査から改築への業務内容の移行の検討を行うことや、市が緊急対策として実施する調査と包括による実施個所が重複する場合があります、その調整に苦慮しており、今後検討していきます。 (6) 浸水対策として行うハード対策で、ポンプ排水で川に放流するという話がありましたが、合流地区では汚水が混ざるといいます。雨水だけ放流させる仕組みについて教えてください。 《回答》 雨天時に集まった下水については、晴天時汚水の何倍かは処理場に持っていくこととしておりますが、それを超えたものは堰を超えて川に流れていくという仕組みになっております。対策を行う地区は地盤が低く自然流下で川に流すことができないため、堰を超えたものをポンプを使って川に送るという形で計画しております。 (7) 関東大震災級、またはそれ以上の地震が起こった場合の対応について教えてください。 《回答》 処理場が機能しない際には、管路の一番低いところで消毒をし、固形物は沈殿保留させ上水だけを流すという応急対応により、流入制限を行わないという方法をとらざるを得ないと考えております。その間に処理場の調査と応急対応を行うことが必要になってくると思っています。 BCP（業務継続計画）については、課題を見つけた際にはブラッシュアップを行いたいと考えております。 (8) 事業7の令和7年度以降「浸水想定区域図の活用・更新」について、最近はゲリラ豪雨などとも言われていますが、どのくらいの頻度で更新するのでしょうか。 《回答》 近年雨が強くなってきているという状況もあり、浸水想定区域図を活用してハザードマップを更新する作業を現在行っており令和7年度からの活用を考えています。 (9) 事業2の管路改築の進捗について、令和5年度が24%、令和6年度が47%となっています。予算も令和5年度が0.4km、令和6年度が0.9kmとなっており計画に対して予算が小さくなっています。延長が短くなった要因は何でしょうか。 《回答》 管路改築で採用している工法を行える業者が不足していたことや、この数値として計上されないマンホールの改築を今年度行っていること、また令和4年度以前は調査が予定の半分しか行えていなかったことにより、改築箇所を顕在化できなかったことが要因で改築が進まない状況でした。今後、ウォーターPPPにより維持管理と更新の一体型の発注を目指しており、目標値を達成できるのではないかと検討を進めております。 (10) 事業16の「生活排水処理施設整備構想の推進」について、毎年「推進」となっていますが、管路整備以外に何か考えられるのでしょうか。 《回答》 神奈川県生活排水処理施設整備構想は県で定めているもので、本市では下水道の計画区域から外れている一部市街化調整区域については、個人で合併処理浄化槽を設置して汚水処理を図ることとしております。下水道の集合処理と合併処理浄化槽による個別の処理を併せて藤沢市全域の汚水処理100%を目指すということです。
---------------	--

審議等の概要	(11) 事業１３「新エネルギーの活用に向けた取組」について令和５年度が「調査・研究」、令和６年度が「グリーン電力の導入準備」、令和７年度が「調査・研究」となっています。「調査・研究」に戻ってしまったようにも見えますが令和５年度と令和７年度がどう違うか教えていただきたい。 《回答》 令和５年度は浄化センターにおける太陽光の導入の検討委託を実施し、設置場所等を確認した上で費用対効果を勘案し、設置可能な面積や規模を検討しています。令和７年度は基本設計という形で導入のスキームや事業者の選定に向けた要求水準書の検討などを行う予定です。 (12) 施策８から１２までは定性的な内容が目標値として設定されています。特に調査・研究が５年間くらい続くものについては、知見を共有するためどこかで中間報告のようなものを行うことは可能でしょうか。 《回答》 調査・研究については取組状況に具体的な内容が記載されていないため、時期を見て報告させていただきます。 (13) 前回（第４回）審議会の資料４では、例えば施策１０の事業１３の４項目などまとめて「○」の評価になっていますが、それぞれ評価した内容を伺わないとなぜ「○」になったのかが分かりません。次回の説明の際は事業の個別のテーマごとの評価とその内容について説明いただき、それに基づいて翌年度以降をどうするかという議論を行うようにしていただきたい。 《回答》 どのようなものを検討して、結果どうだったかということをお示しできるよう準備いたします。 (14) グリーン電力の導入にはコストがかかりますが、藤沢市の下水道部としての脱酸素対策への取り組みであることをＰＲし、市民の皆さんにプラスのイメージを与えるような発信をお願いしたい。 《回答》 どのようなＰＲができるのか検討を進めてまいります。 (15) 施策９「雨天時リスク対策の推進」について、方針策定と対策の推進が分かれて記載されています。対策については検討の結果、管路の改築によって対応するという方針が決まっているということでしょうか。 《回答》 管路の改築、更生を行うと継ぎ手部分がなくなり、浸入水がなくなってくるという見立てをしており、ストックマネジメント計画による改築を進めることで管の継ぎ目からの浸入水は少なくなると見込んでいます。ただ、過去から調査を行ってきた中でも具体的に発生源が明確になっていないという状況があり、具体的な方向性の決定まではまだ至っておりません。 (16) 施策１１の「雨水浸透施設の設置促進」について、こういった位置づけで、どれくらいの拘束力があるのか、どのように進めるのかを教えてください。 《回答》 普通の戸建ての建物については排水設備の申請が来た時に、浸透できるところには浸透ますの設置をお願いしていますが、強制力があるわけではありません。開発行為や中高層の建築物の建設については雨水の貯留施設や浸透施設設置が義務づけられているので、指導し、施設の中で雨水の流出抑制をしていく対応を行っています。 (17) 施策１３で財政シミュレーションとありますが、どのようなものの出力ができるのか教えてください。下水道協会で市販されているシミュレーションソフトでしょうか。 《回答》 １０年、２０年先の財政状況や、中期経営計画のＰ.５５に記載の経営計画目標の将来予測が立てられるものです。下水道協会のものではなく、藤沢市で独自に作ったものです。
その他	(１) 下水道フェア アンケート結果（参考資料）